



図書館報

2015 Spring vol.29

SEASON



ISSN 1349-3760

2 附属図書館長新年度挨拶
フレイザー図書館長新任挨拶

8 SUPECIAL COLUMN II

4 SUPECIAL COLUMN I

10 図書館書簡

6 SBW 全学読書運動案内

附属図書館長新年度挨拶



創価大学附属図書館長
経営学部
前田 清隆 教授

平成27年度もまた希望あふれる新入生を迎え、図書館スタッフ一同、新たな気持ちで業務をスタートいたしました。本学には中央図書館のほかに、理工学部フレイザー図書館、看護学部白樺図書館、法科大学院図書室が分館としてあり、さらに中央教育棟2階のSPACEも読書と協同学習の場を提供しています。学生の皆さんが読書と思索にふけり、協同学習する環境は整っています。大いに活用ください。

本年は創立者と「20世紀最大の歴史家」トインビー博士との対談集『二十一世紀への対話』が出版されてより40周年の佳節を迎えております。この書は、「人生と社会」「政治と世界」「哲学と宗教」という三つの柱を軸として、地球文明の未来、国際情勢、恒久平和、生命論、環境問題、女性論、青年への期待、教育論などを論じたものです。すでに28言語に翻訳されています。創大生の必読書と言っても過言ではありません。

本学では、この佳節にA棟1階において『池田大作とトインビー展』を開催するとともに、本書を課題とした『学生論文大会』も行います。新入生をはじめ多くの学生、大学院生の皆さんが、この機会に、歴史的な名著を学び、探求する機会を持つていただきたいと思えます。社会はこれまで効率性や合理性の追求を第一としてきました。論理的思考力に優れた者が優秀とされ、成功者として扱われてきました。

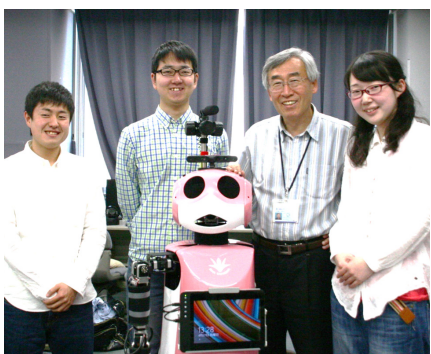
藤原正彦氏はその著書『国家の品格』の中で、論理の出発点は仮説であり、「仮説を選ぶのは論理ではなく、主にそれを選ぶ人の情緒」とされ、ここに情緒とは宗教的情緒をも含めた、論理以前のその人の総合力とも表現されています。さらに情緒力がなくて論理的な人は最悪とまで言われています。

学生時代にこうした情緒を養う場こそ図書館であると申し上げておきます。社会では、パソコン、スマートフォンなどを使い、情報をより多く、より早く入手し、処理できる論理的な問題解決能力が重視されました。こうした能力を否定するつもりはありませんが、創大生には次の時代を拓く問題発見能力に優れた人材も多く出ていただきたいと念願します。

創立者の恩師は、「青年よ、心に読書と思索の暇をつくれ」とよく指導されたと思っています。本年度も多くの皆さんが来館され、読書と思索、協同学習に活用されるようお待ち申し上げます。

フレイザー図書館長新任挨拶

大学生活の中心 幸せの源泉である図書館の思い出す



研究室のメンバーと共に
(右から二人目が崔教授)
フレイザー図書館長
理工学部副学部長
崔 龍雲 教授

創価大学フレイザー図書館(理工学部分館)の存在をご存知ですか？

「創価大学に工学部棟が誕生した際、私は、フレイザー総長への尊敬と、グラスゴー大学の長所を学んでほしいとの思いをこめて、図書館を「フレイザー図書館」と命名させていただいた」これは、聖教新聞掲載(2002.5.12)の創立者のお言葉を引用しております。

2015年春、工学部24期に引き続き、理工学部初の新入生を迎える理工学部棟の入り口玄関に入り、右側エレベータの左奥にフレイザー図書館(Sir. William Fraser Library)と描かれた銘板があります。それが、フレイザー図書館(理工学部分館)です。皆さんは、ご存知でしたか？

大学に入学してから、ある一時期、何をどうすればいいかわからなくて、ただ大学に通って授業に出

て、試験を受けて単位を取って、ぶらぶらしていた記憶が私にもあります。これこそ、世間でよく言われるスランプかも知れませんが、誰もが一度は経験することだと思いますが、実際に皆さんの学生生活はどうでしょうか？私の場合、「どうして?」という疑問からはじめて、「どうしよう」という心配と共に苦悩しながら過ごしたところも薄暗い図書館の書庫でした。今になって振り返ると、そのときこそが疑問を抱いて、基礎を勉強し、漠然として幾度も変遷した目標に向かう細道に誘い込まれた礎になったのではないかと思っております。そのきっかけを作ったのも図書館でした。

世の中の、便利で忙しいので、スランプに陥る暇なんかありませんよと言うかも知れませんが、それより、スマートフォンや電子書籍、及びGoogleのような電子サービスなど、便利なツールが数多くあるので、図書館に行かなくてもことは足りると思うかも知れませんが、特に学生の皆さん、便利さのあまりに忙しさを疲労度は増すと思いませんか？それがゆえに、学習意欲、集中力はどうでしょうか、冷静に考えてみる必要はありませんか？これに加えて、学生のみなさんは授業中に携帯電話をチエックしなければならぬほど、本当

に忙しい生活ですか？これ、また何のためか大学にいるのかを含めて、一度冷静に考えていただきたいです。皆さんは大学生活の中で図書館の利用度はどうですか？

一般に大学での授業の本身は、多くの研究者たちの長年にわたって得られた成果物なので、その時間内で簡単に理解できるわけではありません。必ずというほど各自が理解に苦しむはず。

ところで、授業時間が終わると図書館ではなく、テレビやゲーム機、それにネットワークが完備されたPCのある自分の部屋に帰ってこもり、睡眠不足による生活の乱れを訴える学生が増えていることも事実です。人生の黄金期と言われる大学生活の成功の鍵は、大学で見つけた新分野に挑戦し、直面した壁に対して乗り越えた経験が何度あるかによって決まる気がしてならないです。これを世間では「実力、能力」というでしょう。その挑戦に苦悩する大学人の居場所が図書館であり、そこで苦悩する時間に比例して目標に近づける日々の充実感、その積み重ねが世間で言われる幸せを掴める早道ではありませんか？

インターネット検索と知識の探求



創価大学法学部
松田 健児 教授

1970年代を学生として過ごした者にとって、この半世紀近くの大学における学習環境や学習の仕方は大きく変化しているように見えます。例えば、大学図書館が、本学図書館にも開設されているように、ライニング・コモンズのような場を提供することを標準化しようとしていることに、学習の環境が大きく変化しつつあることを感じます。ライニング・コモンズはパソコンやタブレット、あるいはスマホ等のツールを用いて大学図書館によって提供される、またインターネット上で提供されるテーマに関する多種多様な電子情報資源を利用しながら学習することを可能にする環境や場を

提供するものですが、また、学習を教科書や専門書等の図書を孤学する仕方から、ディスプレイを通して協働的な仕方へと変化させていくものでもあるようです。

ところで、大学図書館の提供する電子情報資源が量的にも質的にも充実して来ているにもかかわらず、私は、それらの情報資源、特にインターネット検索によって得られる情報を学習や教育に利用することあまり積極的に取り組んで来ませんでした。その理由はパソコンやスマホ等のツールによる検索を通じて利用可能になる電子情報が学習者自身にとって、その必要性や重要性に照らしても整理することが不可能と思えるほどに圧倒的な量に達する、と考えて来たためでした。また、インターネット検索によって得られる電子情報が学習テーマに関連してはいるものの、個別的、断片的で、教科書等の提供する既存の網羅的で体系的な知識との関連付けの程度が低い傾向があるために、学習の質の確保について懸念を生じさせるものと考えて来たからです。しかし、私は、最近、そうした懸念を払拭して、

インターネット検索によって利用できる情報が網羅的で体系的に整理された知識を獲得する学習にいかにも有用であるかを自覚する出来事を体験する機会がありました。

その体験とは2012年度前期のある授業参加者A君と7月に入って食事をしながらの会話の中で、A君が放射能汚染は公害ではないという考えがあることは信じられない、と発言したことに端を発するものでした。実は、このA君の発言は、私がその6月下旬頃の授業中に2011年3月11日以降の放射性物質の放出について行った受講者の問題意識を挑発する発言への応答でした。私は、大学の法学者の間においては、講学上、放射能による大気・水・土壌の汚染は、環境法上の公害に該当するものではないと取り扱われていることを紹介しました。その取り扱いの理由については、環境法における公害は環境基本法によってその概念が定義され規定されている、と述べるのみで十分な説明を行えず時間切れでした。A君は予想通りに興味と関心を示す応答

をしてくれましたが、その応答内容は私が予期していたものとは少し異なり、法律上の公害概念に対する非難性を強く帯びていました。そこで、私は、非難に止まらずに、どのような経過において、社会通念とは懸け離れた公害概念が法律上において規定され、また、何故今日まで存在し続けているのか、について調べてみませんか、と誘ってみました。A君は翌々週には、環境法上の公害概念に放射性物質による大気汚染、水質の汚濁及び土壌の汚染が含まれないとの考えの根拠は当時の環境基本法13条の規定であること、当時の環境法13条の規定は放射性物質の規制については旧法である1967年の公害対策基本法を引き継いだ結果であること、1967年公害対策基本法は原子力利用を促進するための1955年原子力基本法や放射線障害の防止のための原子力設備の規制を目的とする1957年の原子炉等規制法等に放射性物質の規制を委ねていたこと、しかしながら、原子力基本法等の関連法は放射性物質の規制についてその環境中への大量放出の事態を想定した規定を持たず法の空白を生じさせていたこと、それ故、2012年6月20日に成立した原子力規制委員会設置法はこの法の空白を取り除くために附則第51条によって環境基本法13条の規定を削除したこと、同13

条の削除によって環境法の枠外におかれてきた放射性物質及び汚染物も公害物質となり社会通念とは懸け離れた法律上の公害概念は取り除かれたこと、さらに政府は放射性物質について、環境基本法16条が定める「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準を定める」義務を負うことになったが、そうした基準は未だに定められていないことを報告しました。

私はA君の僅か2週間の調査成果とその報告内容が講学上の公害概念に存在する法の空白の成立の経緯を見事に説明していること、政府が環境基本法の改正後において放射性物質に関する環境基準の制定義務を負っているとの指摘が適切であることを評価しながら、どのようにして調査したのかを尋ねました。A君は、人が疑問を解決したとき、また分かったときに見せる喜びの表情を浮かべながら、インターネット上のサーチエンジンの一つであるグーグルで「放射能*汚染*公害*環境基本法」のキーワードで検索して得られた電子情報に基づく報告であることを明かしてくれました。A君が参照した情報源は、何れも環境基本法の改正直後に公表された「原発公害に取組む札幌市民の会」の弁護士による、ブログの記述や「放射能汚染防止法(仮称)

制定「公害犯罪処罰法」緊急改正ガイドブック」、および、日本弁護士連合会の「放射能による環境汚染と放射性廃棄物の対策についての意見書」(2011年7月29日付)でした。

このような情報を数週間の間に入手することは1970年代には、学生にとって、また当該分野の研究者や専門家であっても困難なことであったと思われれます。現在私たちが手にしている電子情報資源と検索ツールは、問題となっており、断片的な知識を基礎として、それらに関連付けることによって、網羅的で体系的な知識を形成するという大学における知の探求をより多くの人々に対して、開放し、嘗てない程に容易にするものなのです。

著者プロフィール
略歴

創価大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得
主な論文・著作

「英国における純粋な経済的損失とネグリジエンス責任」
「イギリス法における公職者の個人責任」
「英国における団体による致死罪の判定について」
「イギリス法におけるInternet概念とRight概念を巡る問題の一面」

Soka Book Wave (SBW) 全学読書運動

参加対象／学部生・短大生・留学生

主催／Soka Reading Project

Soka Book Wave (SBW) とは...

創価大学全学読書運動・Soka Book Wave (SBW) は、2004 年度より図書館と学生諸団体が協力して実施してきた、全学的な読書運動です。創立者が提唱される「活字文化復興」を実現するため、創価大学、創価女子短期大学から「読書の波」を起こそう、との学生の熱意で始まりました。

SBW は学生有志と図書館職員で構成する Soka Reading Project (SRP) が企画・運営をしており、読書感想文の他にも、広報活動、展示企画、創大祭での読書展、特別講演会の開催など、精力的に活動をしています。

参加して読書感想文を提出するには...

SBW に参加するには、まず新規ユーザー登録を行いシステムにログインします。

(SBW サイトより登録を行う <http://lib.soka.ac.jp/sbw/>)

イベント一覧から開催中の SBW にエントリーをし、読了した本の感想文やショートレビュー、書評の提出などに挑戦します。感想文 1 件ごとに 1 ポイントが付与され、

5 ポイント貯まると図書カード (500 円分) を 1 枚進呈します。(ボーナスポイントもあります)

読書する本は何でもよいか?...

図書館にある本、自宅にある本から自由に選んでください。ただし、

次のものは対象外となります。

- ① 漫画 ② 辞事典 ③ 写真集
- ④ パンフレット・小冊子 (100 頁未満)
- ⑤ 就職・資格試験等案内書 ⑥ 雑誌

※中央図書館 2 階に、「SBW 推薦図書コーナー」を設けておりますので、是非ご活用ください。

各種講座への参加ポイント制度も...

以下の「各種講座に参加」することにより、SBW ポイントを 2 ポイント付与いたします。

- (1) SPACe 主催の講座
(「文章力アップ講座」又は、「読解力アップ講座」)
- (2) 図書館・SBW 主催の講座 (SBW 特別講演会)

SBW のキャラクターは学生有志が創り出しました。

SRP になると、展示企画や創大祭での読書展、特別講演会などの企画・運営をすることができます！



マンガン



ブックン



めくるん

SBW 推薦図書 貸出ランキング

(集計期間：2014 年 4 月～2015 年 3 月)



- 1 位：二十一世紀への対話：対談 (上) / 池田大作著；アーノルド・トインビー著
- 2 位：学は光：文明と教育の未来を語る / ヴィクトル・A.サドーフニチ著；池田大作著
- 3 位：君が世界を変えていく：対訳 / 池田大作著
- 4 位：創立者の語らい / 池田大作著；創価大学学生自治会編
- 5 位：新・人間革命 (第 1 巻) / 池田大作著

図書紹介

創立者の入学式メッセージで紹介された図書

第 45 回創価大学第 31 回創価女子短期大学入学式で、以下の図書が紹介されました。

『Unbowedへこたれない：ワンガリ・マータイ自伝』

ワンガリ・マータイ著；小池百合子訳／小学館／2007.4

※上記図書は、中央図書館で借りることができます。閉架書庫 (請求記号：289/Ma 11)

(蔵書検索で出庫依頼をして書庫利用カウンターにお越しください)



執行挨拶／SRP 藤井優衣

皆さんこんにちは！Soka Reading Project (SRP) 2015 年度総括の藤井です。私たち SRP は、全学読書運動である Soka Book Wave の推進を行い、創価大学に読書の波を起こすべく活動しています。具体的には、図書館内での展示や、講演会・読書会などを企画しています。

皆さんにとって「読書」とはどんなものでしょうか。娯楽としての読書もちろんあると思います。しかしそれだけではなく、読書をする事で自分を変えることができると私たちは考えています。本の中には、新たな知識、新たな考え方との出会いが待っています。このような出会いを通して、人間性を磨き、心を豊かにすることができるのではないのでしょうか。

今年度の SBW テーマは、「自分改革～Have a moment with books～」と決めました。自分を変えるための読書。まずは「読む自分」へと変わり、日常の中でもっと本との時間を増やしてほしい。そんな思いをこめたテーマです。このテーマを胸に、今年度もメンバー一同精一杯活動していきますのでよろしくお願い致します。本との瞬間を増やせるように、そのきっかけづくりをしていけたら幸いです。



創価大学キャリアセンター職員
佐藤 伸幸

45期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今、皆さんの目の前には、真っ白なキャンパスが広がっているかと思えます。皆さんはこのキャンパスにどんな絵を描いていこうと思っていますか。キャリアセンターでは、4年間の創大生活を通して、皆さんらしい彩を添えて、未来への絵を描いていけることを応援しております。本稿では、4年間かけて、皆さんらしい絵を描いていく参考になればと思います、3つの挑戦という観点から、参考になる書籍を紹介していきます。

1・勉学への挑戦

高校までの勉強と違い、大学は問いを設定し、その問いをもとに自ら考えて学びを深めていく場です。『米国製エリートは本当にすごいのか?』（佐々木紀明著）は、東洋経済新報社の記者である著者が、米国の名門スタンフォード大学院に留学した経験をまとめた一書です。留学経験についての記

載はもとより、米国トップ大学の学生の、向学心と勉強量を垣間見ることが出来ます。世界の同世代の学生がライバルだとの気概で、自身の勉学の目標を考える参考にしてみてはいかがでしょうか。

また、すべての学問の基礎である読書についても、様々な良書に挑戦をされることで、世界観が広がっていくかと思えます。『読書力』（齊藤孝著）、はこれから知的世界へ入門する皆さんに、丁寧かつ情熱的に読書の効用と意義を説いています。巻末に読書リストも紹介されておりますので、読書が苦手という方も本書を手引きに、読書計画を立てて、本を手放さない生活をスタートしてみてください。

2・世界への挑戦

2点目の挑戦は世界と向き合うことです。創立者は常々、創大生の活躍の場は世界に開かれているとご指導して下さいしています。世界に視野を広げて思考し、行動していくことで、皆さんの可能性を大きく拓いていきます。

『グローバルキャリア』（石倉洋子著）は、世界を舞台に働く上で、必要な勉強や経験について、様々な事例を通して分かりやすく書かれています。また、実際に女性リーダーとして世界銀行副総裁を務めた、西水美恵子氏の『国をつくるという仕事』には、世界の紛争地域や、新興国での仕事、国際組織でリーダーシップを発揮していくに至る経緯について、実体験に即して書かれており、将来的に国際機関やNPO等への進路を考えている方に、良き視座を与えてくれる一書です。

世界への挑戦で最後に紹介する本は、『未来をつくる資本主義』（フチュアート・L・ハート）です。これまで資本主義社会では、企業はともすれば営利のみを追求し、それによって公害や労働問題など、様々な課題が生まれてきました。こうした世界の現状を踏まえて、社会問題を解決していく方途を模索した書籍が本書です。様々な地域、観点から社会問題を捉えて解決策を考察し実践していく取り組みは、多様化する社会で未来を考える私たちに不可欠な視点である

らと思います。世界的な視座を持ちながら、自身の未来を模索していくことは、4年間を通して向き合っていく価値のある大きなテーマといえるでしょう。

3・自己への挑戦

最後は、自己への挑戦です。創価大学に学ぶ皆さんには、創価大学が創られた意義、自身の使命を深く模索しながら、自己の建設に挑んでいってほしいと思います。その際、創立者の著作を研鑽していくことと、古典を紐解くことは大きな啓発を与えてくれるでしょう。『学は光』は、創立者とモスクワ大学のサドヴィニチ総長との対談集です。大学教育のあるべき姿等、いくつもの重要な教育についてのご洞察を学ぶことができます。創価大学で学ぶ意義を深めていく際に、ぜひ手にとつて研鑽して頂きたいと思えます。

また、『二十一世紀への対話』は、創立者と大歴史学者トインビー博士との対談集です。人類社会が抱える様々な課題に関する対談を学び、自らも深く考えることで、思索を深めていきたい一書です。私も1年生の夏に本書を読んだときの感動が忘れられず、英語版にも挑戦し、4年間かけて学び深めていきました。ぜひ、英語版にも挑戦し、研鑽をしてみてください。

最後は古典からの学びです。キャリアを考えるというと、実用的な本を手取ることや、資格を取る事を思い浮かべる方が多いかと思えます。しかし実際には、激動する世界では、自ら深い思考を展開し、リーダーシップを発揮できる人材が求められています。語学の習得等はもちろんのこと、世界の名著に学び、深い人格形成に挑戦していくことは、中長期的に見て、皆さんの進路を拓く上でもとても価値があります。ここでは、『永遠平和のために』（カント著）、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（M・ウェーバー著）の2冊を紹介します。

いかにして平和な世界を築くか。世界的な哲学者の思索の軌跡をたどりながら、この大きな問いを考え、友人と議論を重ねながら読み込んでいくことをお奨めします。社会科学に膨大な足跡を残したウェーバーの代表作も大いに議論が生まれる名著です。この世界をどのような切り口から分析し、読み解いていくか。ウェーバーの超一級の論理を丹念に追いつながら熟読してみたいかがでしょうか。一見、歯がたないような本にも挑戦し、考え抜き、徹して学び抜く中で、真の実力と人格形成に挑戦してみてください。

「キャリア・プランニングに役立つ本」一部紹介

『米国製エリートは本当にすごいのか?』
中央図書館 2階閲覧室 請求記号 377.253/Sa 75

『国をつくるという仕事』
中央図書館 1階各種試験図書 2階閲覧室 請求記号 333.8/N 84

『未来をつくる資本主義』
中央図書館 1階各種試験図書 2階閲覧室 請求記号 332.06/H 33

『二十一世紀への対話』
中央図書館 2階 SBW 推薦図書 3階閲覧室 請求記号 189.72/I 32

『永遠平和のために』
中央図書館 2階 SBW 推薦図書 3階閲覧室 請求記号 134.2/Ka 59

以上3つの観点から書籍を紹介いたしました。無限の可能性を持って入学された皆さんが皆さんにしか描けない色とりどりの絵を描き、夢を叶えていくことが私たちキャリアセンター職員の間でもあります。みなさんが大きな夢を実現していくその日まで、キャリアセンター職員一同全力でサポートに当たらせていただきます。創価大学のキャンパスでお元氣な皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。

April.

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		



通常開館時間
8:30-21:00
赤字は休館です

May.

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

June.

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

→9:00-21:00
→10:00-17:00
→10:00-19:00

July.

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



→17:00-18:00
→13:30-14:30

/お申込み
各回初日の2週間前から、「図書館ウェブサイト」—「学習・研究サポート」—「各種ガイダンス」—「講習会・ガイダンス申込受付」から行ってください
/対象
学部生、短大生、別科生、通教生、学部研究生、学部科目等履修生

May.

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

July.

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31